

## 声明

### 北朝鮮は核実験・核開発をやめ 平和と友好による国際社会への復帰めざせ

2月12日、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）は、朝鮮中央通信を通して、3度目の地下核実験を行ったと発表しました。これは、核兵器による威嚇を国際外交の道具に使うやり方であり、北東アジア全体の平和と安全を脅かすもので、けっして許されるものではありません。

そもそも北朝鮮にとっての安全保障上の問題は、国際社会から孤立していることであり、その原因は国内における悲惨な人権状況と、国際的な無法行為を清算しないまま、瀬戸際外交を続けていることにあります。北朝鮮にとって最も効果のある安全保障は、ただちに核開発を中止し、周辺各国と平和友好の外交関係を築き、国際社会への復帰を本気でめざす道です。

同時に、アメリカ、中国、ロシア、韓国など関係国の政府に対し、この問題の平和的解決と六カ国協議再開に向け努力するよう求めます。特に日本政府は、被爆国として核兵器全面禁止を提唱し、問題の平和的解決の先頭に立つべきです。

核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会は、あらゆる国の、いかなる形態における核実験をも全面的に禁止し、核兵器を緊急に廃絶することを求めてきました。私たちは人々の健康と生命を守る医師・歯科医師の立場から、北朝鮮に対したただちに核兵器開発をやめ、その計画をすべて廃棄するよう強く求めます。

2013年2月14日

核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会 世話人会  
世話人代表 金井 英子

#### 核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会

1989年7月、核兵器のない平和な世界を願う県内の医師、歯科医師、医学者が集まり結成。現在会員69名。反核平和をテーマとした市民公開講演会の開催や医療界での啓蒙活動を行う。福島原発事故を契機に原発についても「命や環境と相容れないもの」として脱原発と再生可能エネルギーへの転換をめざすこととなった。

初代世話人代表は佐々学元富山医科薬科大学学長、2代は片山喬元医薬大付属病院長。現在の金井英子氏は小児科医師で、自ら被爆2世である。

連絡先：076-442-8000（富山県保険医協会気付）  
担当事務局・松村、杉田